

トサヒラゴケ *Neckeropsis obtusata* (Mont.) M.Fleisch.

【評価理由】

現在、県内では鳳来寺山の参道の途中（鳳来町門谷）の2ヶ所、及び乳岩峡の1ヶ所の岩面に生育しているのが知られている。鳳来寺山の産地では、発見当時は岩面を覆って生育していたが、現在はかろうじて残っている程度である。全国的にも稀産で、準絶滅危惧種と評価されている。

【形態】

同属のセイナンヒラゴケ（愛知県で絶滅危惧Ⅱ類と評価）に似るがそれより丈が低く、分枝も少なく、葉の配列もあまり扁平にならないことなどから、野外でも区別ができる。蒴柄が短いので蒴は苞葉内に沈生する。



鳳来寺山, 岩月善之助 No.1316.

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来寺山の参道途中（新城市（旧鳳来町）門谷）の2ヶ所及び乳岩峡の1ヶ所で記録されている稀産種である。

【国内の分布】

関東地方（房州清澄山）以南の本州から沖縄へ点々と産地が知られている。

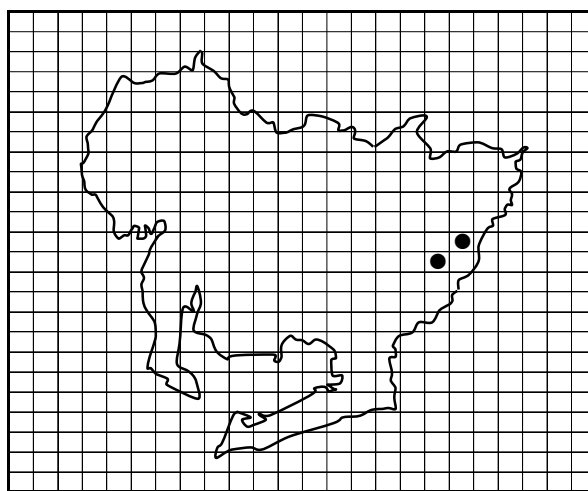
【世界の分布】

中国、台湾、インドシナに分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

県内では暖帯林内の、やや乾いた岩面にへばりつくようにして生育している。南日本では樹幹に着生するが多いが、北上するにつれ樹林内の岩上に生育することが多くなる。鳳来寺山では岩上である。

県内分布図



【現在の生育状況／減少の要因】

鳳来寺山の生育地では、暖帯林（常緑広葉樹林）の林下に横たわる巨岩の側面に着生している。溪流辺からやや遠く、直射光の当たらないやや乾いた岩面である。生育地の鳳来寺山参道一帯は国指定の天然記念物となっており、人為的な改変などからは保護されているが、本種も含めて一帯のコケ植物相に衰退の傾向がみられる。林内環境の乾燥化が原因と考えられている。

【保全上の留意点】

鳳来寺山の生育地で個体数の衰退がみられるのは人為による原因とは考えにくく、林内環境の乾燥化によるものと考えられる。他の植物についても今後継続的な観察を行い、原因究明を行うことが必要である。

【特記事項】

全国的な稀産種であり、愛知県のセン類フロラを特徴付けるものとして重要である。

【関連文献】

高木典雄, 1965. その後みつかった分布上注意すべき鳳来寺山の蘚類. 鳳来寺山紀要, 8: 1-6. 鳳来寺山自然科学博物館.